

八戸市美術館ボランティアだより

八戸市美術館  
〒031-0031  
青森県八戸市番町 10-4  
TEL0178-45-8338  
<http://www.hachinohe.ed.jp/artmuseum/>

# ハビボ通信

## 「日本最高峰で御来光を」

～ひとたびの富士山～

八戸市美術館「ハビボ会」会長 安藤清一

富士の嶺(ね)を高め畏(かしこ)み天雲も  
い行きはばかりたなびくものを

高橋虫麻呂(「万葉集」より)

真紅の光背がたちまち飛散して太陽が山の端に姿を現した瞬間、まばゆいばかりの光線が一直線にのびて、雄大な裾野の気品ある山容をすだいにあらわす。真っ赤な太陽が眼前に現れた。「うおーっ」という歓声があちこちで上がり、かしわ手や万歳三唱も。蒼天の下に雲海が広がり、遠くの山脈までくっきり見える。

富士山にいた私はまばゆいばかりの光を浴びて照らしたされる光景を、茫然として眺めていた。その時、傍にいた妻は「これは祈りの空間ではないか」と言う。私が日本最高峰で御来光を拝めたのは二度目である。



富士山頂からの御来光  
(7月22日撮影)



数年間海外に滞在し、大学勤務を終え帰国した妻に、帰国お祝いに何が良いかと尋ねた。待ってましたとばかりに妻は「一生に一度は富士登山し、御来光(日の出)を拝みたい」と言う。

海外滞在中から、日本一の「パワースポット」富士山に登って御来光をみたいと考えていたようだ。富士山での御来光を、人生の一つの節目にしたいという思いから登山を決意しているようにも思えた。

今年元旦の三陸海岸洋上での御来光に続き、夏の富士山での御来光も悪くはないなと考え実行に移した。

妻のように「一度は登ってみたい」という発意のなかには、漫然とではあっても、やはり心身の再生を願う気持ちが潜んでいるのではないだろうか。富士山に登るということは、生まれ変わるということを意味する。

左右均等に裾野を広げた美しい山容は、春夏秋冬、それぞれに違った表情で私たちを魅了する。富士山頂までの道は厳しいが、その厳しさを克服することで、何がしかの力を得たい。そんな思いを抱いて、人は富士山に登るのだろう。

絵画の世界でも、富士山は絶好のテーマであり、名作も多い。富士を描くのは山の絵の中でも一番難しい。単純な構図の中にこの山の持つ気品を描く、とうてい描けるものではない。それにしてもすぐれた一流の画家はみんな富士山を描いた。残念ながら私は富士登山はしても、まだこの山を描けないでいる。

画布の題材として「絵になる」という単純な動機が私にはない。「好き」という感情も嘘ではないにしても、そのぐらいの構えで富士山が描けるわけがない。



## 企画展「国展の作家たち」

～昭和を彩った青森の美術家～

国展とは、戦前、戦後を通じ、洋画・工芸・彫刻・版画・写真の5部門を擁する国画会が主催する国内最大級の公募展のこと。

当時、活動を広げる大きな足がかりとなったのが国展。

「自由な創造」を命題とした国展から棟方志功や関野準一郎をはじめとする個性的な作家が生まれた。今回は、誰でも一度は名前も作品も目にしたことのある地元の作家11人の作品が展示され、来場者は絵の前で作家との思い出を語り合い、昭和の風を感じ、また遠くパリの印象派を思い、それぞれに楽しんでいた。青森の素晴らしい美術家たちがいかに活躍してきたことかと、改めて誇りに思った。（千葉・成田）



棟方志功「釈迦十代弟子」が並ぶ第一展示室



「浜田庄司・棟方志功芸業展」と書かれた志功直筆の立て看板



第三展示室には渡辺貞一、石ヶ森恒蔵らの作品

## 2000年の昔へ研修旅行！？



～～ 古代ローマ帝国の遺産

栄光の都ローマと悲劇の街ポンペイ展 ～～



5月26日（水）は生憎の雨でしたが、22名の参加で青森県立美術館へ研修旅行に行きました。2000年の時を超えての今回は彫刻が多く、特にアウグストゥス帝像がメイン。ローマ帝国の礎を築いたアウグストゥスですが、この像は発見された部屋が皇帝の部屋だったので、顔の部分がなかったが勇壮な姿はまさに皇帝であろうということでアウグストゥス帝として修復されたらしく、高さ2m、重さ3tの大理石の像は錫杖を持ち、威厳を持ってこちらを見下ろしていました。居並ぶ彫像の中には特別出品の「アレツォオのミネルヴァ」ブロンズ像が、修復後国外では初の展示として微笑を浮かべて立っていました。

また、火山灰の中から発見されたポンペイの出土品の数々、特に宝飾品は眼を楽しませてくれ、映像室ではCGによる「黄金の腕輪の家」と呼ばれる個人の邸宅の復元映像が放映されていて、しばしのタイムスリップを体感しました。古代が眼前にある不思議にいつも感心しますが、みんな、美男美女ばかりです。ローマの豊かさを堪能し、ランチに舌鼓の一日でした。

（山口）



おいしいランチ！（青森JALシティにて）

# 生涯の趣味を始めよう！ 水彩画 / 油絵入門

ハビボ会主催の「水彩画入門」が今年も6月から9月までの3ヶ月間（計8回）美術館で開かれました。「水彩画入門」は10月開講の「油絵入門」とともに今年で9年目を迎える人気講座で、毎回、募集定員を超える申し込みがあります。

画材の説明から始まり、「モチーフとリズム」「配置の工夫」「着彩のコツ」「ぼかしの工夫」「にじみの効果」「仕上げのコツ」など、描き方の詳しい解説と一人ひとりへの丁寧な指導が人気のポイントです。

10月からはいよいよ「油絵入門」（初心者向け）が始まります（下記要項参考）。講師はハビボ会会員の安藤清一さんと工藤成子さん。＜楽しく描いて、人生が豊かになる＞油絵の世界をあなたも体験してみませんか。

（岩崎）



全神経を筆先とキャンパスに

- ・開催期間 平成22年10月～23年1月（第一・第三金曜日）
- ・時間 午後6時30分～午後8時まで
- ・募集定員 先着20名で締切
- ・受講料 4,000円（材料・資料代など）
- ・持ち物 油絵道具類
- ・受講生説明会 平成22年10月8日（金） 午後6時30分
- ・申し込み 平成22年10月7日（木）までに美術館へ

TEL 45-8338

## 傑作ぞろい！！ 「水彩画入門」受講生の作品から



## スタッフ紹介

- ① 趣味
- ② モットー

館長 佐藤 雅英（さとう まさはる）

- ① 原生林や源流を歩き、原生の自然に触れ原始人になること。

- ② 美術館の活動は、ボランティアや文化団体など多くの市民に支えられています。古くて小さな美術館ですが、地域に根ざした芸術・文化交流の場にしたいと思っています。

副館長 山田 泰子（やまだ やすこ）

- ① 読書、音楽鑑賞（いずれもジャンルを問わず何でも）

- ② 時間は自分でつくるもの。時間がなるとあきらめず、楽しい時間はつくるべし。

主幹 大嶋 千早（おおしまちはや）

- ① 読書
- ② 美術館建設時の基本理念を忘れず、原点回帰。

主査 伊藤 桂子（いとうけいこ）

- ① 音楽鑑賞、ショッピング
- ② お客様への対応（挨拶や言葉づかい等）を丁寧にするよう心がけています。

## ゲームに歌に…今年の 納涼パーティ



少し緊張？



乾杯の音頭は佐藤新館長

八戸三社大祭前夜祭（7月31日）と同じ日に開かれたハビボ会の納涼パーティは賑やかなゲームから始まりました。2グループに分かれ、それぞれのグループに共通する項目を沢山書き出した方が勝ちというゲームです。「みんな、安藤会長が好き、佐藤館長が好き」（熟女はやはりリツボを心得てる）、「恋の経験が沢山ある」（フムフムフム・・・）、「ヘアスタイルが全員ショートカットである」（そういえば）・・・これだけよく思いつくものと感心しきりです。

続いてのTシャツアートゲームは、白いTシャツに様々な切った色紙を貼り付けてデザインするというもの。全員美術好きばかり。本領発揮のチャンスです。センスを問われる作業でもあり、みんな真剣そのもの。そしてユニークなTシャツの完成です。拍手が多かったのはハートマーク連続模様のグループでした。最後はカラオケ上手の歌声で閉めとなりました。（磯 沼）



デザイン比べ・・・知恵を絞った力作です。



### 新会員です！ヨロシク！

**坂下奈穂美**（八戸市在住）

一番印象に残っているのは世界の名画を陶板の原寸大で展示している大塚国際美術館。「最後の審判」を再現したシスティーナ・ホールには圧倒されました。

**杉本貴子**（八戸市在住）

茶道（準教授）を長年やっているせいか、茶器、茶掛などの名品を尋ねる美術館巡りが大好きです。宜しく御願います。

**中里ひろし**（階上町在住）

国展では早速、監視役の体験をさせていただきました。色んな企画展を観るのが好きなのでこれからも楽しみにしています。

**前森悦子**（八戸市在住）

絵を観にどこにでも出掛けます。岩手県立美術館の「ヨーロッパ絵画展」とその時開かれたバロック音楽のミニコンサートには感動しました。

**三浦真佐子**（八戸市在住）

美術が好きで、所用で青森に出掛けるたびに県立美術館へ。ハビボ会には私でも何かできることがあるかなと思って入会しました。

**吉田秀子**（八戸市在住）

今年観た中では東京国立博物館の「レンブラント展」が印象に残っています。東京にいた時は、アートクラブに所属して油絵を描いていました。

### ＜これからの催し物＞

（11月3日（水）は文化の日のため無料開放）

☆コレクション展Ⅲ「くらしの美」

10月9日（土）～12月12日（日）

☆企画展

「高橋みのる～木のからくりおもちゃ展～」

「西野こよ～ひしぎの美～」

10月9日（土）～10月24日（日）

☆特別展「トリック・アートの世界」

～視覚のふしぎ～

12月18日（土）～1月30日（日）

☆コレクション展Ⅳ「伝わる音」

2月11日（金）～4月17日（日）

### 編集後記



暑さ寒さも彼岸までといいますが、尋常でない暑さともそろそろお別れのように。朝夕の爽やかな風と賑やかな虫の声を聞きながら、先延ばしにしていた用事を済ませているこの頃ですが、所詮一日は24時間、四苦八苦の毎日です。（山口礼子）

国展で、鳥類を描いた絵に見入っている小学生の男の子がいました。「この絵が好きなの？」と聞いたら「うん」と可愛い返事。色々な作品と出会うことで、豊かな感性と優しさを育ててくれたら嬉しいですね。（成田敏子）

オルセー美術館展に行く。ゴッホの絵画の前は山のような人の群。珍しい展覧会があると、まずは行ってみようという素晴らしい日本人気質の現れか。人の頭こしに遠くから見るゴッホより、間近でみる国展での郷土の美術家の絵画の方が胸にしみる。（千葉マキ子）

もののがついたような酷暑も去り、やっと秋らしさが。秋はいいですね。読書の秋です。発行までまだ時間があるとのんびりしていたら締め切りが過ぎてしまい、編集に支障をきたした様ですみませんでした。これも暑すぎた夏のせい？（磯沼子ヨ）

美術館になる前は税務署だった建物も40年とか。人間でいえば80～90歳。そろそろ建替え時なのでは？と思うのですが。（岩崎優子）